

---

# いつかまた/3Z

蘭奇

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いつかまた／＼

### 【Nコード】

N6954Q

### 【作者名】

蘭奇

### 【あらすじ】

私はひまわりになろう

太陽が顔をかくしてしまっても

遠くで輝く太陽をずっと追いかけられる

ひまわりになろう。

今までありがとう

- - - - - 大好きでした

でもね、忘れないよ

「神楽あ、準備できたかあ？」

「もうちょっと！ もうちょっとだけ待つヨロシ！」

「何で待つてもらうのにそんな上から目線！？」

もうちょっとだけ。

この部屋、私の住みなれたこの部屋とちゃんとお別れしたいから。

大好きなこの部屋のおい。

香り、なんて良いものじゃないけど

なつかしいこの“おい”が私は大好きなんだ。

「定春う、お前とももうお別れアルなあ。」

白くてふわふわした定春の体に顔をうずめてそう呟くと

答えるように顔を舐めてくれた。

もうそろそろ行かないと。

もう一度、確かめるように部屋中を見回す。

いつも銀ちゃんがふんぞり返って座っていたソファー。

何度も壊れるポンコツテレビ。

私の寝室代わりにもなってくれたタンス。

銀ちゃんが書いた、無駄に綺麗な「糖」の字。

他にも、テーブル、くるくる回る椅子、

床、天井、壁、この部屋の空気や雰囲気に至るまで。

お別れしなくちゃいけないものが多すぎて。

お別れしなきゃいけないことが悲しくて。

「また、いつでも遊びに来れるもん。」

結局どれともお別れできなかった。

最後にもう一度部屋を振り返ると、奥の机の下に写真が落ちていた。

拾い上げて見てみる。

「これ……………」

卒業式の日にクラスみんなで撮った写真。

泣いている子や、周りの子にちょっかいをかけている子。

逆光に目を細める子に、涼しい顔でクールぶっている子。

色々いたけど、写真の中みんなは最高の笑顔だった。

「おおい、神楽！ もう本当時間ぎりぎりだって！

アーユー、レーディー??」

「イエス！ 今行くアル！」

さつき拾ったばかりの写真をポケットに入れて

今度こそ、最後に部屋を振り返る。

「定春、またナ！ 元気でナ！」

その言葉とたくさんのお別れを、大好きだった部屋に置き去りにして

銀ちゃんの所へと走り出した。

大好きだったよ。

この部屋も、この町も、3人みんなも。

- - - あいつも・・・

太陽みたいな人。

近いようで遠くて。

届きそうだけど、届くことなんて絶対に無くて。

眩しすぎて、苦しくて。

抑えきれないくらい大好きで、胸が痛んだ。

大好きでした。

これからも、ずっと大好きです。

- - - You'll stay in here, my



h  
e  
a  
r  
t  
  
f  
o  
r  
e  
v  
e  
r  
.

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6954q/>

---

いつかまた/3Z

2011年10月7日05時18分発行